

おすすめ 鉄道の旅

Vol.1

「JR関西本線」 内藤真也



関西から名古屋へ行くとき、皆さんはどのようなルートを使われるでしょうか？おそらく多くの方が、新幹線あるいは近鉄特急を利用されるのではないかと思います。その陰に隠れて、実はもう一つ、魅力的な鉄道路線が存在するのをご存知でしょうか。それが今回紹介する、難波から奈良、亀山を経由して名古屋へと至るJR関西本線です！

中でも奈良駅から亀山駅に至るローカル区間が私のおすすめ。奈良からほどなくして到着する加茂駅は、いわゆるお茶の京都の玄関口。駅前からバスに乗り、美しい柵田とお茶で知られる和東町の旅を楽しめます。加茂駅の隣、こちら京都府の笠置駅は、木津川と笠置山に囲まれた自然豊かな笠置町の中

心。キャンプや日帰り温泉が楽しめる施設があります。桜で有名な笠置駅を後にし、梅で有名な月ヶ瀬口を抜けると、伊賀流忍者の里である三重県の伊賀上野に到着。途中下車して忍者屋敷見学はいかがでしょうか？さらに東へと進むと、むかし東海道の宿場町として栄えた関、そして亀山駅へ。特に関駅からほど近くの関宿では、当時の面影を残すノスタルジックな町並みを楽しむことができます。

短い解説ではありましたがいかがだったでしょうか？皆さんも是非一度、魅力あふれる関西本線の旅を楽しんでください。加茂駅から亀山駅の間は、列車が1時間に1本と少なくなっていますので、乗り遅れに注意してくださいね！

ALL OVER THE WORLD NOW

世界の国々は今

「ルワンダ」 Vol.2

今回の留学の目的は、26年前に大虐殺を経験したルワンダという地で平和学を学ぶためでした。南部のファイエという町にあるプロテスタント人文社会大学(通称PIASS)という私立の大学で、平和学の講義を受講しました。平和について様々な視点から学び考える授業は新鮮で、興味深いものばかりでした。一連の授業を通して、これまで何度も耳にし、使ってきた「平和」や「紛争」という言葉が表すものが、自分が思うよりずっと深く広いものであるということに気づかされました。

日本では、「平和」という言葉は普段、戦争がない状態か、あるいはその状態を望み、維持しようとする精神を意味するものとして使われることが多いと思います。しかし、ただ戦争がないだけでは不完全で、経済的・社会的格差や差別など、社会の分断や争いにつながるあらゆる要素が存在しないときにこそ、はじめて本当の意味で平和な社会と言えるのだということを知りました。このような点から見ると、日本は今も様々な課題を抱えており、真に平和とは言えないと思います。

PIASSでの学びは、自国に対する「平和な国」という認識を改めさせられ、これから自分が生きる社会をどのように見て、どう関わっていくのかということに問われるような、重要な経験になりました。また、ルワンダをはじめ、アフリカの様々な国出身の学生と共にこのような学びができたことも得難い機会でした。PIASSには現在、ウガンダ・ブルンジ・コンゴ・マラウイ・南スーダン・ナイジェリア・ガーナ・カメルーンといった8カ国もの国から来た留学生がおり、多様なバックグラウンドを持った人たちが共に学び、コミュニティを作って共同生活を送っています。彼らとの交わりの中で、母国の文化・習慣について紹介してもらったり、日本のことについてこちらから話したりする時間は刺激的で、文化や価値観の違いを肌で感じ、自国を見つめ直す機会を多く与えられました。

日本を離れ、大学寮での共同生活を通して、ただの友達ではなく兄弟姉妹のような関係性を築くことができました。一年という短い期間でしたが、その出会いと共に過ごした時間は一生の財産です。(次号につづく) (文・吉田 望)

Blessing Shower

「主からの贈り物」

河野 明子



平安とは、心が無事で穏やかな事。当時銀行員の父を持つ私は、小学校6年間で4回も転校した。幼少時代は、人の目等一切気にせず、誰とでも打ち解けられる人懐っこい性格だった私だが、教師や友達からのいじめを経験し、人の目を気にする臆病な性格へと変わっていった。表面上は笑顔で会話している友達も、グループが変わる度に人の悪口を平気で言う。人間の醜さ、弱さ、妬み、うそ。様々な攻撃に心が痛み、人間不信からやがて身

体の不調へとエスカレートしていった。そんな小学校時代に教会学校へと導かれ、空よりも広く海よりも深く決して裏切る事のない主の愛を知った。人間はどんなに偉いと言われる人でも皆弱く、過ちを犯してしまう存在。そして自分も過ちを犯し、人を傷つけてしまう存在。しかし、そんな私でも愛してくれる主と出会った時に、環境は変わらずとも人の目を気にせず主の愛に励まされ、私の心の中は誰も脅かす事のできない平安へと変わっていった。

あれから40年。様々な試練や悲しみに出会い涙することもあるけど、私の心のどん底にはいつも揺るがない主の平安が消え去る事なくある。そんな自分にビックリする。主が与えてくださった平安。贈り物は決して無くならない。

「あなた方に贈り物をあげましょう。あなたがたの思いと心を安らかにすること、それがわたしの贈り物です。わたしが与える平安は、この世のはかない平安とは比べものになりません。だから、どんな時にもおろおろしたり、恐れたりしてはいけません。」

リビングバイブル ヨハネの福音書 14章27節

ALL OVER THE WORLD NOW

世界の国々は今

「ルワンダ」 Vol.2

今回の留学の目的は、26年前に大虐殺を経験したルワンダという地で平和学を学ぶためでした。南部のファイエという町にあるプロテスタント人文社会大学(通称PIASS)という私立の大学で、平和学の講義を受講しました。平和について様々な視点から学び考える授業は新鮮で、興味深いものばかりでした。一連の授業を通して、これまで何度も何度も耳にし、使ってきた「平和」や「紛争」という言葉が表すものが、自分が思うよりずっと深く広いものであるということに気づかされました。

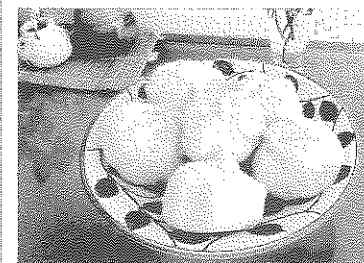
日本では、「平和」という言葉は普段、戦争がない状態か、あるいはその状態を望み、維持しようとする精神を意味するものとして使われることが多いと思います。しかし、ただ戦争がないだけでは不完全で、経済的・社会的格差や差別など、社会の分断や争いにつながるあらゆる要素が存在しないときにこそ、はじめて本当の意味で平和な社会と言えるのだということを知りました。このような点から見ると、日本は今も様々な課題を抱えており、真に平和とは言えないと思います。

PIASSでの学びは、自国に対する「平和な国」という認識を改めさせられ、これから自分が生きる社会をどのように見て、どう関わっていくのかということに問われるような、重要な経験になりました。また、ルワンダをはじめ、アフリカの様々な国出身の学生と共にこのような学びができたことも得難い機会でした。PIASSには現在、ウガンダ・ブルンジ・コンゴ・マラウイ・南スーダン・ナイジェリア・ガーナ・カメルーンといった8カ国もの国から来た留学生がおり、多様なバックグラウンドを持った人たちが共に学び、コミュニティを作って共同生活を送っています。彼らとの交わりの中で、母国の文化・習慣について紹介してもらったり、日本のことについてこちらから話したりする時間は刺激的で、文化や価値観の違いを肌で感じ、自国を見つめ直す機会を多く与えられました。

日本を離れ、大学寮での共同生活を通して、ただの友達ではなく兄弟姉妹のような関係性を築くことができました。一年という短い期間でしたが、その出会いと共に過ごした時間は一生の財産です。(次号につづく) (文・吉田 望)

つくもん
ごーな

「Go Go! Ichibaku 風 豚まん」



BY ニイハオおばさん

◆ 材料 ◆

生地	
薄力粉	150g
強力粉	50g
砂糖	15g
塩	3g
ドライイースト	3g
ベーキングパウダー	5g
ぬるま湯(40度くらい)	120cc
サラダ油	大1

フィリング	
豚ミンチ	150g
{玉ねぎ 中半個}	みじん切
{干しシイタケ 2枚}	切り
しょう油	大1
酒	大1
ごま油	大1
みりん	大1
中華あじ	小2
片栗粉	小2

◆ 作り方 ◆

- ① ボールに粉類を入れて混ぜておく。
- ② ぬるま湯を入れながらゴムベラで混ぜ、粉がなじんだら手で混ぜる。まとまったら、まな板の上で手のひらを使って3分程こねる。最後にサラダ油を混ぜ込みながらなじませる。(ボールに丸くまとめてラップをし30分程置き発酵させる。)
- ③ 生地を発酵させている間にフィリングの材料をよく混ぜ合わせ6等分にしておく。
- ④ 生地が2倍程に膨らんだらボールから出し6等分に丸くまとめ濡れ布巾をかけ5分程ねかせ。中央を少し厚めになるようめん棒などで薄くのばしていく。
- ⑤ お餅で餡を包む要領で中央に②のをせ生地の端を集め、ねじってしっかりとめておく。
- ⑥ クッキングシートにのせて蒸し器で15分ほど蒸す。
※ 具を中華風(長葱、タケノコ、干しシイタケ)にしたリオイスターソースを入れたり餃子の餡やカレーの残りを使って自分流にアレンジしてください。

希望のダイヤル

毎週メッセージが変わります

0798-20-9666

パソコン、スマホからYouTubeでも視聴できます。
一麦西宮教会で検索してください